

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790101099	
法人名	株式会社 ふれあいの里	
事業所名	サンケア東長江	
所在地	金沢市東長江町へ13番地1	
自己評価作成日	令和7年11月11日	評価結果市町村受理日 令和7年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社emu
所在地	石川県金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506
訪問調査日	令和7年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念“ひとの「生きる」を照らしたい。”  
ご入居者様やそのご家族、地域の皆様、ここで働く従業員も、おひとりおひとりの人生がもっと明るく、暖かくなるように。私たちは事業活動を通じてひとと社会を照らす太陽になりたいと考えています。  
私たちサンケア東長江は、自然に囲まれた場所に位置し、窓を開けると近隣の小学校から子供たちの元気な声が聞こえてきます。活動も徐々に再開し、ボランティアさんによる太鼓、マジックなども開催しています。内科や歯科とも連携し、異常の早期発見や早期治療につなげ、日々皆様の体調管理に留意しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年より秋まつりを再開され、近所の子供たちも楽しみにされている。今年はいよいよの雨でしたが、それでもたくさんの子供が来所され、輪投げや的あて、スーパーボールすくいなどで楽しんでいた。ポテトや唐揚げなども好評であった。これは普段より小学校のマラソン大会時に外に出て作った旗を振って応援したり、保育園の園児たちが訪問してくれたり、小学生が太鼓の演奏をしてくれたり地域との交流をされている背景がある。又普段よりボランティアの方も来てくれており、秋祭りの際にも協力してくれている。今年の大雨の際、2階へ垂直避難し、利用者の安全を確保されている。又、裏山の一部が崩れ、市役所にも地盤を調べて頂いたり連携を取りながら、安全を確認されている。医療とも連携がとれており、緊急時の体制も構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念及び行動指針を事業所内に掲示している。また企業理念と行動指針を基軸に各ユニットでの月次目標を掲げ管理者が出席するユニット会議において共有と実践に繋げている。	「人の生きるをてらしたい」の理念のもと、利用者の夢を叶えたいという思いで支援されている。具体的に利用者の要望に応えるために、「空き家になっている自宅が気になる」といわれる方には、家族に協力をいただき見に行かれたり、「家に帰りたい」と言われる方には1週間ほどご自宅で生活していただいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の郵便局の活用や地域の小学校との連絡活動には参加する機会を持ち、地域の一人として受け入れていただけるよう交流の場を大切にしている。今年度も小学校のマラソン大会の応援団として参加させていただき、できる限りの繋がりがりや関わりを実践している。	保育園の子供たちが来所し、首飾りなどを持ってきてくれたり、小学生が太鼓の演奏をしてくれるなど交流の場が持たれている。秋祭りにはたくさんの子供が来てくださり、輪投げや的当て、くじ引き、スーパーボールすくいなどを楽しまれている。ボランティアの方も多く来てくださり、たくさんの方と交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には会議に参加していただきすこづつ認知症の方を理解していただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、事業所の活動やご意見を聴きながらサービス向上にめざしている。	運営推進会議には 小学校の校長先生や 保育園の園長、包括支援センターの方、市役所の方、家族の方などが参加されている。事業所の報告をした後、地域の意見や要望などもお聞きしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は市に問い合わせさせていただき、ご指導いただいている。	大雨で裏山の一部に土砂崩れがあり、市に調査を依頼している。表面が崩れたが、土台自体は問題ないとのことで安心されている。転倒による骨折などの事故報告もタイムリーに行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上安全のために施錠することはあるが、希望があれば職員と共に外へ出ることは可能である。また身体拘束委員会を通じて、3ヶ月1回実施し、職員教育にも取り組んでいる。	身体拘束や虐待については委員会が設置されており、3ヶ月に1度開催されている。協議の中ではセンサーマットの使用の要望があるが、センサーがなってから動くのではなく、基本的にセンサーを使わず、定期的に見回りすることで対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為が起らないよう、管理者が参加する毎月のユニット会議では、認知症について学ぶ機会を設け、職員同士がユニットにおける出来事やケアを題材にし、考える機会を持てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、制度の理解に努めそれらが必要な入居者様へ活用できるようにしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、不明点には丁寧に答え、安心して入居いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様へは事業所に対する要望や希望など引き出せるような会話を心掛け、ご家族には来所の際や入居者様のご様子についてご連絡させていただき際にご意見を伺っている。すぐに反映可能なことは早急に実践し、時間を要することについては、その旨ご説明し反映できるよう努めている。	利用者の要望として、「外に行きたい」などがあるが散歩やドライブなどで対応されている。また、家族の要望としては「お部屋での面会がしたい」や「外出がしたい」などがあり、感染症が発生していない時期に関してはその要望に応えている。感染症予防の観点から居室ではなく玄関先で面会いただくことも了承を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、品質会議(幹部会議)やユニット会議を開き、業務に関する意見や提案を出し合える機会を設けている。そこでの変更点や決定事項は職員と共有している。	問題点などもユニット会議で検討している。夜間に自己判断でおむつに切り替えた場合など、利用者のADLを下げないためにどうしたら良いかなど話し合われている。また個別の相談などもその都度対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価により、職員一人一人が自己の目標を決め、自己評価、上司評価があり、その評価に反映する仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育・中途入職者教育等事業所内で各委員会主催の研修会を実施している。今後も個々のスキルの研鑽のために初任者研修、実務者研修などの受講を支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内はもちろんのこと、同地域の事業所とも積極的にコミュニケーションをとっていききたい。介護サービスの質の向上を図っていききたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントによる情報等を職員が共有し、入居直後は特に環境の変化による不安定な心情に寄り添い、安心して過ごせるよう支援し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことも早めに連絡・相談し、安心につなげるようにするなどして、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既に入居を望んでおられることが殆どではあるが、「認知症対応型共同生活介護」というサービス種別がご本人にとって適切であるか、という視点を持ち初回アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事ややりたい事が続けられるように、一緒に挑戦したり役割や生きがいに繋がるような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の日用品などお持ちいただくことや、受診への付き添いなど共にご本人を支える関係が継続できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、馴染みの人や場所の関係継続は中々難しい現状ではあるが、会話の中で話題にすることや、入居後から新たに他入居者様や職員との馴染みの関係が構築できるよう支援している。	家族の方にも協力を得ながら、馴染みのラーメン屋に食べに行ったり、教会へ礼拝に行くなどされている。また受診の後にお寿司を食べに行くなどされている。入居者同士やスタッフとの馴染みの関係も支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の把握と、入居者様同士の日頃の関わり合いにも注視しながら、みんなで参加できるレクリエーションの計画等で孤立する方の無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了(特養入居・医療機関への入院)時、ご家族へは何時でもご相談をお掛けする旨、お伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの暮らし、ご本人の思いを把握するように努めている。またご家族と話す機会を設け、ご家族の希望や思いを確認している。ご本人の意向が困難な時には、ご家族と話し合いご本人にとって必要な支援を行っている。	家族が要望される清潔のための理美容など、どうしても本人が納得されない場合は、家族の方にお話をさせていただくと了承される場合がある。嫌な事はよく覚えているので、お声かけにも気をつけて対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネやご家族などから情報を収集し、アセスメントを行い少しでも多くの情報や、複数の視点からご本人の様子や思いを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の過ごし方、心身の状態が理解できるように現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの状態を職員間で情報共有することにより、ご本人の課題に合わせた計画の作成・実施・モニタリングに活かしている。	利用者に対してはスタッフは担当性をとっており、モニタリング等は担当者が実施している。その内容についてユニット会議で気づきを報告しあい、計画についてもチームで検討されている。担当者は家族に3ヶ月に一度、近況をお伝えする手紙を書き、郵送されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録はPCに入力しており、ケース記録、各種チェック表等でモニタリングをし介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス種別にて法令順守の下、柔軟な支援やサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域資源との協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるようにしている。必要時にご家族にも報告と承諾を得ながら支援している。	かかりつけ医はユニットごとに月に2回往診されている。歯科医の往診の環境も整っている。今までの病院で受診を希望される方や定期検診の方は家族と共に受診されており、胃カメラや整形外科、眼科、皮膚科などにも通われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員から、入居者様の健康についての相談や報告が適切に行われており、異常時や緊急時には搬送、受診に繋げることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は、早急に入院先への情報提供を行い病院関係者との連携に努めている。入院中も、病院関係者と情報交換や相談をし、退院後のスムーズな受け入れができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しているが、ご本人・ご家族の考え方を尊重し事業所で出来る事を説明しながら支援を行っている。ご家族の要望で入院を希望された場合は、入院の支援を行っている。また、看取りを希望された時には、ご家族・主治医・看護・介護と連携し支援している。	入居の際、終末期における看取りの希望をお聞きしている。実際に終末期になった場合には、医師より家族に説明をしていただき家族の意向をお聞きしている。看取りを希望された方は、今後の看取りについて家族、医師、看護師、介護士と共に要望や支援について話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応を共有し、介護職員と看護職員との連携で応急手当や初期対応が出来るよう備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時のマニュアルを活用、緊急連絡網の作成など整備している。緊急時の対応後は事故分析を行い事故原因との正改善案を会議で話し合い、二度と繰り返さないよう情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	内科医師の来訪は毎週あり(往診は2週間に1回)、他に必要時歯科医師の診察を受けることができる。総合病院を協力医療機関、特別養護老人ホームをバックアップ機関としている。	特別養護老人ホームなどと連携が取れており、お互いに空き状況などを確認されている。病院についてはかかりつけ医と連携をとっているが、総合病院などとも連携をとりバックアップ体制が構築されている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤体制は各ユニット1名で2ユニットあり建物内には2名となる。必要に応じて管理者・介護リーダー・看護職員との連絡体制や内科医(ホームDr)とも緊急時の連絡体制が構築できている。	夜勤は1ユニット1名で合計2名体制が取られている。必要に応じて、管理者、看護師、介護リーダーがフォローに入れるように連絡体制を整えている。状態の変化に関してはかかりつけ医や看護師が対応されている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は実施し全職員が避難方法を学んでおり避難場所は夕日寺小学校となっている。	夕日寺小学校への避難は徒歩を想定しており、車椅子なども使用する予定でいる。水害に対してはまずは垂直避難をするため、寝たきりの方を車椅子に移乗しエレベータに乗せて移動する訓練もされている。	今年は大雨時による避難がグループ施設内でも発生している。避難についてやライフラインが使えない際、どうやって避難するかなども検討し、利用者の状態や薬の持ち出し、お薬手帳の情報も含めBCPに追記することを期待する。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事業所内での避難経路や消防設備の点検・確認を行っており、緊急連絡網を整備している。	避難訓練や消防設備点検などは定期的に行われており、今年の大雨の際には2階に垂直避難されている。緊急連絡網も整備されており、備蓄に関しは3日分の食料を保管されている。	消防設備の点検の際に、スプリンクラーなどの消防設備が誤作動した場合の解除方法等を確認することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を大切にし、人権を考慮した姿勢でケアを行っている。トイレ誘導時のさりげない声掛け、会話の声の大きさにも配慮するなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	プライバシー保護については特に排泄時の声かけについて配慮されている。誘導時やケアの際は声の大きさなどにも気を配られている。排便があった時には「出ていない」と利用者には言われないように聞き方にも配慮されている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望が表せるよう心がけ個別にケアを行っている。また、多くの場面で自己決定できるように働きかけを行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々のペースや生活習慣に合わせた「その人らしい暮らし」を理解し、体調や要望を伺いながら希望に添えるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型の決定や、着替えの洋服選びを一緒に行うことで、入居者様が自身の身だしなみに関わり、好みやこだわりが出せる機会をつくるよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けや、おやつレク等は、入居者様にお声掛けし職員と一緒にやっている。	食事についての準備や片付けなど利用者は職員と共に行われている。おやつレクリエーションなど参加型の食事は楽しみにされている。嚥下状態にも気をつけながら、一人ひとりが楽しく食事できるように工夫されている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの考えられた食材が外部業者より確保できている。食事摂取量、体重の変化、水分バランス等状態に合わせて考慮し支援している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科医にも相談し助言をもらっている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録等で把握し、その方にあつたトイレ誘導をしている。また、カンパレンスを行い可能な限りトイレでの排泄が続けられるように考え支援している。	自立の方が多いが排泄のパターンは職員が理解されており、お声かけされている。夜間、オムツの方もいらっしゃるが、お声かけでトイレに行かれる場合もあり、可能な限り、トイレで排泄できるよう支援されている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と、程度な運動を心がけることで自然排便を促すよう努めている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴日は設定してあるが、その方にあつた時間や声掛けで入浴している。入浴日以外でも、希望や諸事情に合わせていつでも入浴は可能である。	一般浴とリフト使用日は曜日は分けてあるが、入浴日以外でも臨機応変に対応されている。入浴を嫌がる方もいるが、お声かけやタイミングなど工夫し、入浴されている。体調が悪く週1回の時は、清拭などで対応し支援されている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあつた休憩や安眠ができています。質の良い睡眠が得られるために、昼夜の生活リズムが整えられるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は介護職員が、薬の管理は看護職員が行っている。また、入居者様に処方されている薬の副作用や用法などについては、薬情報を確認し、安全に確実に服薬が行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、TVゲーム、園芸、洗濯たみ、ちぎり絵、塗り絵、折り紙、演歌を聴くなど、入居者様が其々楽しみを持ち過ごされており、それを継続できるよう支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事ごとを通じ地域の方々との交流を図っている。外出外泊も事前にご連絡頂きながら実施している。	晴れの日などは積極的に散歩に出かけている。ドライブは楽しみにされており、春の桜や秋の紅葉を見に行かれている。家族と外出される方もおり、一人ひとりの支援が出来るよう努めている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を使用する機会がなく、必要物品はご家族が用意されたり、引き落としで購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、はがきの支援は希望があれば行っている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は温かみのある色調で揃えてあり、トイレ、洗面所は広々とした間取りで車椅子の入居者様でも快適に使用できるよう工夫している。自然に囲まれた中に立地し、窓からの眺めは自然を感じて暮らせるようになっている。	季節ごとに壁の飾りを利用者と共に作成され季節感を味わうようにされている。午前、午後と体操やレクリエーションを行い、その都度快適に過ごせるように温度管理などをされている。アレルギーでくしゃみが出る方や風が当たると鼻水が出る方などには、座る場所を変えたりして対応されている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、キッチン、ダイニングテーブル、テレビ、ソファ(一人掛け・数人用)が設置しており、入居者様それぞれが自身の居心地の良い場所で過ごせるよう配慮している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物や思い出の写真等を持ってきていただき、入居者様に安心感と居心地の良さを体感していただけるよう工夫している。	居室にはなじみのものを持参されていて、ご位牌などを持ってこられおまいりされている方もいる。テレビや携帯電話を持ち込まれる方もいて、携帯の使い方が分からな場合なども対応されている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により、歩行状態に合わせて車椅子や歩行器等が必要なときに使用できる環境になっている。		